

平成 25 年 1 月 16 日
消 防 庁

第 17 回防災まちづくり大賞受賞団体の決定

「防災まちづくり大賞」は、地方公共団体や自主防災組織等における防災に関する優れた取組、工夫・アイデア等、防災に関する幅広い視点からの効果的な取組を推奨し、もって地方公共団体等における災害に強い安心・安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的として実施しています。

この度、「第 17 回防災まちづくり大賞」について受賞団体を決定しました。

受賞団体は、14 団体で表彰部門別内訳は次のとおりです。

総務大臣賞	3 団体
消防庁長官賞	4 団体
(財) 消防科学総合センター理事長賞	5 団体
(財) 日本防火・危機管理促進協会理事長賞	2 団体

計 14 団体

※受賞団体名等は、別添の受賞団体一覧表に記載されています。

(表彰式の日程)

日 時：平成 25 年 1 月 23 日（水）15 時 30 分から 17 時 00 分まで

場 所：中央合同庁舎 2 号館 総務省講堂（地下 2 階）

〒100-8927 東京都千代田区霞が関 2-1-2



防災まちづくり大賞シンボルマーク

<問い合わせ先>

消防庁

国民保護・防災部防災課 浦田、中村

TEL：03-5253-7525

FAX：03-5253-7535

予防課 児玉、柳瀬

TEL：03-5253-7523

FAX：03-5253-7533

第17回防災まちづくり大賞 受賞団体一覧表

【総務大臣賞】受賞団体(3団体)

部門	都道府県	市区町村	団体名	事例名
一般部門	岩手県	宮古市	岩手県立宮古工業高等学校 機械科 課題研究 津波模型班	擬似津波実演会
	宮城県	仙台市	特定非営利活動法人 せんだいファミ リリーサポート・ネットワーク	子育てファミリーのための地震防災ハンドブックの作成 と配布
住宅防火部門	東京都	江戸川区	楽曲「うちのUFO 住警器」作成グループ	住警器ソング「うちのUFO 住警器」&イラストが全国 で活躍

【消防庁長官賞】受賞団体(4団体)

部門	都道府県	市区町村	団体名	事例名
一般部門	宮城県	南三陸町	南三陸町立歌津中学校（歌津中 学校少年防災クラブ）	災害時において地域を担う人材の育成 ～その訓練活 動と指導の取組～
	神奈川県	川崎市	たかつ地域ネットワーク推進会議	障がい者・高齢者等災害時要援護者支援のための防 災対策事業
	石川県	珠洲市	しょういん 正院地区自主防災組織	地域の宝を地域の手で守るために ～地域による津波 一時避難場所の整備～
住宅防火部門	高知県	津野町	津野町	住宅用火災警報器設置普及推進

【消防科学総合センター理事長賞】受賞団体(5団体)

部門	都道府県	市区町村	団体名	事例名
一般部門	京都府	京都市	祇園町南側地区協議会	京都の歴史的景観「祇園町南側地区」を守る実行力あ る行動
	兵庫県	神戸市	兵庫県立舞子高等学校 環境防災科	防災専門学科による地域や社会と協働した防災教育 の実施
	和歌山県	海南市	海南市立黒江小学校	津波から身をまもる！ ～黒江船尾地区実践的津波避 難訓練から学ぶ～
	和歌山県	田辺市	田辺市立新庄中学校	地域と共に学ぶ防災教育 ～11年目を迎えた「新庄地 震学」(平成23年度)～
	長崎県	長崎市	さんぜんごうち 山川河内自治会	念仏講まんじゅう配り ～150年前の被災の伝承がつな ぐ山川河内の防災～

【日本防火・危機管理促進協会理事長賞】受賞団体(2団体)

部門	都道府県	市区町村	団体名	事例名
住宅防火部門	福島県	三春町	三春町立沢石中学校	「絆プロジェクト」～消防団と中学生の絆づくり～
	栃木県	足利市	足利市婦人防火クラブ連絡協議会	安全・安心の街づくり推進と住宅用火災警報器の設置 促進活動

※ 各受賞団体の概要は別紙のとおりです。

第17回防災まちづくり大賞受賞事例概要

1. 一般部門

(1) 総務大臣賞

団体名：岩手県立宮古工業高等学校 機械科 課題研究 津波模型班

事例名：擬似津波実演会

所在地：岩手県宮古市

概要：岩手県立宮古工業高等学校の機械科、津波模型班では、平成17年度から宮古湾周辺の地区や地形に合わせた津波の模型を9基製作、大きさは180cm×145cmで、実際に高低差をつけた模型に、色つきの水を使って津波がどのように流れるか、どのような被害が予想されるのかを再現した。この模型を活用して、宮古市の住民や、山田町や釜石市の小・中学生等にも実演するとともに、過去の津波被害を紹介し、参加者の防災意識の高揚に取り組んでおり、平成23年度末までに実施した実演会は62回を数える。

団体名：特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク

事例名：子育てファミリーのための地震防災ハンドブックの作成と配布

所在地：宮城県仙台市

概要：せんだいファミリーサポート・ネットワークは、「仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台」の運営を行い、子供たちの遊びの場や母親たちの交流の場の提供、子育て支援に関する様々な取組を行っている団体で、東日本大震災以降、施設で不安がる子供たちや、母親たちの姿をみて、地震対策の必要性を強く感じ、子育てファミリーのための地震防災ハンドブックを作成。ハンドブックは、震災を経験した母親たちの様々な視点で構成されており、持ち運びができるようにA5サイズにするとともに、イラストを多用するなど工夫がされている。

(2) 消防庁長官賞

団体名：南三陸町立歌津中学校（歌津中学校少年防災クラブ）

事例名：災害時において地域を担う人材の育成 ～その訓練活動と指導の取組～

所在地：宮城県南三陸町

概要：歌津中学校では、「防災」に関する学習を総合的な学習の時間のテーマとして位置付けて、地震や津波に関する学習や津波の防災マップづくり、救

急救命法や応急処置法の訓練などを実施するほか、PTA行事として、親子で炊出し訓練や簡易トイレの製作訓練を行うなど、防災教育に伝統的に力を入れて取り組んできた。東日本大震災以降、震災の経験を後世に語り継ぎ、どこよりも「災害に強いまち」にすることを目指し、全校生徒を構成員とする「歌津中学校少年防災クラブ」を発足させて、様々な活動に取り組むとともに、地域の消防署や消防団、婦人防火クラブ、町役場、保護者などとともに、「歌津中学校防災教育協力者会議」を発足させ、地域ぐるみでの取組も行っている。

団体名：たかつ地域ネットワーク推進会議

事例名：障がい者・高齢者等災害時要援護者支援のための防災対策事業

所在地：神奈川県川崎市

概要：たかつ地域ネットワーク推進会議では、火災や大地震を想定した児童生徒向け防災訓練（避難訓練）を消防署の協力を得ながら取り組んでおり、児童生徒が一定の避難対応方法を学ぶ機会を設けている。毎年7月から、過去の震災での要援護者の状況や川崎・横浜両市の援護者向け防災対策を学ぶ「保護者・支援者向け学習」や「夜間親子避難体験」、障がい者の理解のための学習や防災マップ作り、避難所運営の方法等について学ぶ「防災ボランティア養成講座」を実施している。10月末には、その成果を生かし、児童生徒とその保護者、地域町会自治会、ボランティア等、約150名が参加して防災シミュレーション訓練（避難所設営訓練）を行っている。

団体名：^{しょういん}正院地区自主防災組織

事例名：地域の宝を地域の手で守るために ～地域による津波一時避難場所の整備～

所在地：石川県珠洲市

概要：正院地区自主防災組織は、地区で行われる県の総合防災訓練や市の総合防災訓練など、様々な訓練に自主防災組織として参加するなどして、防災意識の高揚を図ってきた。そのような中、東日本大震災を受け、平成23年5月から約1ヶ月半の時間をかけて、市指定の津波来襲時の一時避難場所でもある殿山を自主的に整備した。整備に当たっては、山の所有者の理解を得るとともに、消防団、各ボランティア、青年団、PTA、地域住民などの有志200名が参加。それぞれの経験や職業を生かし、木を伐採して避難路を拡幅したり、登坂に枕木や砂利を敷設したり、手すりを設置して登りやすくするなど、避難路や避難場所を整備した。正院地区自主防災組織は、地域で協力し、津波からの避難に備えている。

(3) 消防科学総合センター理事長賞

団体名：祇園町南側地区協議会

事例名：京都の歴史的景観「祇園町南側地区」を守る実行力ある行動

所在地：京都府京都市

概要：祇園町南側地区は、京都を代表する町並みの一つであり、歴史的な町並みを守ろうと、平成8年に祇園町南側地区協議会を発足。平成11年には、地区一帯が京都市の歴史的景観保全修景地区に指定されたのを機に、住民独自で「祇園町南側地区景観協定」などを締結した。その後、平成13年には「NPO法人祇園町南側地区まちづくり協議会」を設立し、平成15年1月1日からは、「祇園町南側地区消防計画」を施行して同地区全体の防火管理についての必要な事項を定め、火災等の災害に対する予防及び人命の安全並びに被害の軽減を図ることを目的とした取組を行っている。

団体名：兵庫県立舞子高等学校 環境防災科

事例名：防災専門学科による地域や社会と協働した防災教育の実施

所在地：兵庫県神戸市

概要：兵庫県立舞子高等学校では、平成14年度に専門学科である「環境防災科」を創設し、体験を基本とした防災教育活動を実施してきた。大学や研究機関の専門家、企業関係者など、様々な外部講師を招いての授業や、アジア防災センター（ADRC）や国際協力機構（JICA）等の研修生の受け入れ、学生の震災体験の発表、意見交換などを行っている。また、近隣小学校と共同での防災学習を行うなど、阪神・淡路大震災における生徒自身や親の震災体験を未来へと語り継ぐ活動にも力を入れている。さらに、学生を近隣防災福祉コミュニティの防災訓練や防災運動会、クイズラリー、夏祭りなどに参加させ、地域が学生を教育する環境を構築するとともに、災害の被災地への支援活動なども継続的に実施している。

団体名：海南市立黒江小学校

事例名：津波から身をまもる！ ～黒江船尾地区実践的津波避難訓練から学ぶ～

所在地：和歌山県海南市

概要：黒江小学校では、地震や津波に備える態度を身につけるための年間計画をたて、減災教育や津波避難訓練を実施した。第3、4学年では地域の方々への過去の地震や津波についての聞き取り調査（フィールドワーク）、第5学年では大型立体模型を作成しての津波到達シミュレーションの実験、第6学年では津波表示板の設置状況や危険箇所などを調査し避難計画を考えたり、地域の実践的津波避難訓練のスタッフとして参加し避難誘導を行っ

たりするなど、学年毎に応じた様々な取組を実施した。

団体名：田辺市立新庄中学校

事例名：地域と共に学ぶ防災教育 ～11年目を迎えた「新庄地震学」(平成23年度)～

所在地：和歌山県田辺市

概要：昭和21年12月21日に発生した南海地震と、直後の津波で甚大な被害を受けた経験を将来に受け継ぐため、新庄中学校では、平成13年から総合的な学習の時間や選択の時間を活用して「新庄地震学」の学習をスタートさせた。この学習は、3年生が班別に、過去の地震・津波による災害状況や復興の過程、防災の取組などについて調べてまとめ、発表する体験型学習で、学習内容は「地震学発表会」で生徒・地域住民に発表している。また、保育園や幼稚園、小学校、敬老会等での出前授業や、地域住民への防災意識アンケート調査と考察、避難所生活体験や小・中・地域合同避難訓練等を実施している。

団体名：さんぜんごうち山川河内自治会

事例名：念仏講まんじゅう配り ～150年前の被災の伝承がつなぐ山川河内の防災～

所在地：長崎県長崎市

概要：山川河内地区は、3方を山に囲まれ、古くから35世帯前後を維持してきた農村集落である。1860年4月9日(新暦5月末)朝、大雨による土石流が発生し、家屋7軒が全半壊し、33人が犠牲となった。行方不明者の捜索を打ち切った翌日の14日を月命日として、災害による犠牲者を弔う念仏講まんじゅうを毎月14日に集落の全世帯に配り始めてから、150年間継続している。災害の供養としてまんじゅうを配ることにより、世代を超えて災害体験を継承し、地域の土砂災害のリスクを共有してきた。これにより大雨の際に周囲の状況等に注意し、自主避難がなされる環境と防災意識が醸成されている。

2. 住宅防火部門

(1) 総務大臣賞

団体名：楽曲「うちのUFO 住警器」作成グループ

事例名：住警器ソング「うちのUFO 住警器」&イラストが全国で活躍

所在地：東京都江戸川区

概要：東京都内の各消防本部・消防署では、住宅用火災警報器(以下「住警器」という。)の周知及び設置促進を目的とする様々な広報活動を展開してきた

が、それらはチラシやポスターなど視覚に訴えるものが中心であったことから、よりインパクトの強い広報手段として、「うちのUFO 住警器」作成グループでは平成21年3月に住警器ソングを作成した。楽曲は東京都のみならず、北海道から沖縄まで全国40都道府県、83の消防本部等において住警器の設置促進キャンペーンや各消防本部のホームページにおける広報などに広く活用されている。同グループは、作詞は池田和生、作曲と歌は三咲順子、編曲は土井克仁、録音編集等の協力は日本工学院専門学校長の千葉茂、イラストは菊池仁一の5氏で構成されている。

(2) 消防庁長官賞

団体名：津野町

事例名：住宅用火災警報器設置普及推進

所在地：高知県津野町

概要：津野町では、住警器の設置率が平成22年末現在で約28.2%という状況であったことなどを踏まえ、早急に住警器の設置を促進するため、行政・電器店業者一体となって普及に努めることとした。主な取組としては、防災点検推進員を6か月間、臨時雇用し、消防署員や消防団員の協力も得て、町内全戸を訪問して設置希望者の取りまとめを行ったり、安価な価格で住民が機器の購入ができるよう電器店との交渉を行ったりするなどした。その結果、平成23年10月現在、津野町では97.5%の普及率となったほか、煙発生により作動した住警器の警報音に近所の方が気づき大事に至らなかったなどの奏功事例も確認されている。

(3) 日本防火・危機管理促進協会理事長賞

団体名：三春町立沢石中学校

事例名：「絆プロジェクト」～消防団と中学生の絆づくり～

所在地：福島県三春町

概要：三春町立沢石中学校では、火災への予防、消防思想の向上を図り、将来にわたって防火に努めようとする意欲を高めるため、「沢石少年・少女火防団」を結成し活動してきたが、平成25年3月に閉校することとなったことを契機に、地域で子どもを育てる「絆プロジェクト」を立ち上げた。プロジェクトの活動の一環として、三春消防団沢石分団と協力した消防センターのシャッター画作成や防火パレード、地区の防災会議への参加等、消防団との絆づくりに取り組んでいる。

団体名：足利市婦人防火クラブ連絡協議会

事例名：安全・安心の街づくり推進と住宅用火災警報器の設置促進活動

所在地：栃木県足利市

概要：足利市婦人防火クラブ連絡協議会は、昭和50年12月4日に設立され、組織的な活動を行ってきた。足利市の婦人防火クラブでは、市政目標でもある「安全・安心のまちづくり」を推進するとともに、その目標達成にも不可欠である「逃げおくれ」による住宅火災の死者数の低減のため、住宅用火災警報器の設置促進活動を継続的に取り組んでいるほか、消火器の取扱訓練や起震車による地震体験訓練等による防火防災意識の高揚、防火防災技術を取得するための視察研修を実施している。